

発行/平成元年12月15日 No.14  
えひめ地域づくり研究会議  
(財)愛媛県まちづくり総合センター

## 特集 明日のまちづくり —子供たちとともに—

- ボイスカウトの子供たちと私／山内 和子…2
- 私の誇りモー モー塾／上田 恵…4
- “BBS”って何？／仙波 道枝…6
- 子供たちとのかかわりの中で／西岡 真理…8
- 子供たちとのふれあい／吉田 光枝…10

## 研修レポ

- 島を考える国際シンポジウム………12
- 「人間と鉄」のシンポジウム………14
- まち・むら ナウ……………16

## 研究会議 News Letter

- 八西地区地域づくり交流集会………17
- 遠交近交の戦略……………20
- 「えひめ地域づくり研究会議」への  
ご案内…21

## REPORT

- ニューまちづくりテレビ会議………22
- 地域づくり交流研修ツアー………24

## MESSAGE

- message ………31

まちづくりネットワーキングえひめ

# 舞 たうん

VOL 14

君の  
まわりが  
あたたかい



# ボーイスカウトの 子供たちと私

松山市 山内和子

私は、男の子ばかり三人の子供がおります。三人共、ボーイスカウトに入っていますが、その内容が解つて入団させたのではありません。ただ真面目なよい子に育つて貰いたくて入れた訳です。長男の入隊をきっかけに私自身もすぐデンマザーとなり、副長、隊長、事務局と、この十三年間ボーカスカウト活動の中の一役を担つて活動することになりました。

ボーイス活動に携わる人達は、子供達の両親と、地域社会の人達の情熱で支えられ、運営されています。色々な職業に携わっている方々が、無報酬で指導にあたつて下さっています。忙しい人達ばかりの集まりです。不思議な事に、

暇な方は一人もおりません。「二年か三年指導者をすると、そのお子さんは良い子になりますなあー」と言われた先輩隊長さんの言葉が忘れられません。目に輝きのある少年に成長するのです。さてその目に輝きのある骨太の少年は、どうしてそうなるのでしょうか?。

カブさんの舍管が始まります。二泊ですので大きなリュックを背負っています。隊長さんの「荷物約束が五つあります。すべて経験をして揃えます。お母さんの手で用意された子はすぐ解ります。どこへ肌着が入っているのやら解らないのです。自分でリュックに詰め奉仕活動が出来るようになります。来年も4年に一度の日本ジャンボリーがありますが、暴風の中でも、

私は、男の子ばかり三人の子供がおります。三人共、ボーイスカウトに入っていますが、その内容が解つて入団させたのではありません。ただ真面目なよい子に育つて貰いたくて入れた訳です。長男の入隊をきっかけに私自身もすぐデンマザーとなり、副長、隊長、事務局と、この十三年間ボーカスカウト活動の中の一役を担つて活動することになりました。

カブさんの舍管が始まります。二泊ですので大きなリュックを背負っています。隊長さんの「荷物約束が五つあります。すべて経験をして揃えます。お母さんの手で用意された子はすぐ解ります。どこへ肌着が入っているのやら解らないのです。自分でリュックに詰め奉仕活動が出来るようになります。来年も4年に一度の日本ジャンボリーがありますが、暴風の中でも、

の約束どおりです。お母さんは始めてのうちは何げなくそのあたりに出してやつておき、「さありユックに入れてごらん」と促します。少年は一つの経験が出来ました。座席の前にお年寄りが立たれました。少

年に立つよう目で促します。後で電車は揺れたけど大丈夫だったけどと褒めてやりました。又一つ強くなりました。このようにカブスカウトの約束が五つあります。すべて経験をして揃えます。お母さんの手で用意された子はすぐ解ります。どこへ肌着が入っているのやら解らないのです。自分でリュックに詰め奉仕活動が出来るようになります。来年も4年に一度の日本ジャンボリーがありますが、暴風の中でも、

平常と変わらず夕食の準備をしているボーイスカウト隊員の姿のスライドを見ましたが、非常に印象的でした。カブスカウトからボーカスカウトへ、シニアースカウト、ローバースカウトへと上進するうちに、経験することが深く広くなりました。自立した社

会人となりま

す。隊の指導者として、又自分に合った活動を通して、少しでも社会を明るくする

為に役立つ人間になる事を

目的とする団体であるボーイスカウト活

動の中の末端



カブスカウト隊 (前列左から2番目和子さん)

たかどうか、家庭でも隊でも確めの一員であることを自覚しながら、忙しい日を送っています。最後に私の尊敬するボーイスカウト運動の創始者ベーデン・パウエル卿のB-I-P最後のメッセージをここに記載して締めくくりいたします。



← 無人島キャンプ  
ボーイスカウト隊

宇和町での  
カブラリー大会に参加 →



### 『スカウト諸君』

「ピーター・パン」の劇を見たことがある人なら、海賊の首領が死ぬ時には、最後の演説をするひまはないにちがいないと思つて、あらかじめその演説をするのを、覚えているであろう。私もそれと同じで、今すぐ死ぬわけではないが、その日は近いと思うので、君たちに別れの言葉をおくりたい。

これは、君たちへの私の最後の言葉になるのだから、よくかみしめて、読んでくれたまえ。

私は、非常に幸福な生涯を送った。それだから、君たち一人一人にも、同じような幸福な人生を、歩んでもらいたいと願つている。

神は、私たちを、幸福に暮らし楽しむようにと、このすばらしい世界に送ってくださったのだと、私は信じている。金持になつても、社会的に成功しても、わがままができるも、それによつて幸福にはなれない。幸福への第一歩は、少年のうちに、健康で強い体をつくつておくことである。そうしておけば大人になつた時、世の中の役に

立つ人になつて、人生を楽しむことができる。

自然研究をすると、神が君たちのために、この世界を、美しいものやさばらしいものに満ち満ちた、楽しいところにおつくりになったことが、よくわかる。現在与えられているものに満足し、それをできるだけ生かしたまえ。ものごとを悲観的に見ないで、なにごとも希望を持つてあたりたまえ。

しかし、幸福を得るほんとうの道は、ほかの人に幸福を分け与えることにある。この世の中を、君が受け継いだ時より、少しでもよくするよう努力し、あとの人へ残すことができたなら、死ぬ時が来ても、とにかく自分は一生を無駄に過さず、最善をつくしたのだという満足感をもつて、幸福に死ぬことができる。幸福に生き幸福に死ぬために、この考えにしたがつて、「そなえよつねに」を忘れず、大人になつても、いつもスカウトのちかいとおきてを、堅く守りたまえ。神よ、それをしようとする君たちを、お守りください。

# 私の誇り モウーモウー塾

内子町

上田 恵

『君は大野ヶ原地球人になれるか』これは第一回目のモウーモウー塾のキヤッチフレーズ。私と一世紀えひめニューフロンティアグループの方たちとが出会った最初の言葉でした。モウーモウー塾は、酪農と高原野菜で有名な大野ヶ原の雄大で美しい自然の中で開かれました。この塾の対象となるのは、愛媛県内の小学四年生から中学生、いわゆる大人でも子供でもない境界人です。一番多感で反抗期の真最中である彼らに対するゆきぶり運動が、私たちの目的であり、そのためいろんな事に挑戦しました。牛の世話をはじめ、掘りたての大根を丸がじりし、原生林の中を数時間かけて歩き、洞窟を探検し……。数えあげたらきりがありません。その中で私の

役目はグループリーダー、七、八人の子供を担当して一日中子供たちと、生活を共にするのです。実は、私は他の誰にも真似できないう大きな特権がありました。一つは、数年前に私もモウーモウー塾でお世話になった子供であること、もう一つは、リーダーの中で一番若いということです。私自身が子供なのですが、みんなと仲良しなくなりました。こんな半人前のリーダーですが、私なりに感じたことをこれから述べてゆきたいと思います。

まず初めに、『子供は遊びの天才である』という言葉に私は疑問を持ちました。たしかに子供は遊びますが、それはできあがつたおもちゃであり、自分たちで遊びやおもちゃを作ることは苦手のよう



です。せっかく豊かな自然に囲まれていても、子供たちは部屋の中でトランプをしているのです。私たちは田舎育ちで、幼い頃から自然に恵まれていました。だから身の周りにある全てのものが遊びの対象となり、草や木、岩や川、例えば大きな木は私たちにとって秘密基地であり、ジャングルジムとなるのです。たった一本の何気ない大木も、私たち子供の目に変化して見えます。でもいまの子供たちにはそれがないのです。子供の特徴である柔軟で、豊かな想像力が乏しくなってきているのです。もう一つ、子供たちは人から言わなければ動かず、無気力であるということです。田舎でも隅の方で何もしていません。中学生の頃私はそれによく反発し、髪を赤く脱色して、親や先生の言葉にいちいち反抗していました。モウーモウー塾に参加する子供たちの中にもさまざまな悩みを持つ子がいます。例えば登校拒否、自殺未遂……。そのような子供たちの話を聞くとやはり、学校や友だち、親の事が大きな原因となっているのです。反抗期を迎えるふれるパワーをい

散できない彼らの態度は、とても十代とは思えない程に疲れているのです。そんな子供たちを見ていると、とても悲しく、やるせないと、心で何かを感じ、このモウーモウ塾で何かを教へ、何かを見つけられたら、と思うのです。



ここで私たちの活動をもう少し詳しく紹介したいと思います。モウ一モウ一塾の活動は大きく分けて、土の活動、風の活動、虹の活動とに分けられています。『風とは仲間や自然との触れ合い』『土とは生産のいとなみ』『虹とは未来に向かって夢を持つこと』をテーマとしています。



風の活動とはカルストの自然を  
体で感じることができました。風  
穴やドリーネ。特に洞窟を探検し

当時の子供たちの顔はいきいきとしていて、気分はすっかりトムソーヤです。懐中電灯を手に暗闇の中を歩くスリルは満点で、今にも吸血コウモリが飛び出すのでは、とドキドキしました。

土の活動では、牛の世話や大根の間引きをしました。牛舎へ向かうため、午前四時に起床し、眠い目をこすりながら餌をやつたりそうじをしたりしました。初めは牛に触れなかつた子でも後では頬ず



虹の活動では今、自然保護で問題になっているブナの原生林で、作文を発表しました。二十世紀を担う彼らが今何を考えているのか。それは私にとっても興味深いものでした。

たった四日間のこの塾で、子供たちは見違える程たくましくなりました。そしておとなしかった子供たちがみんな、腕白なガキ大将に変身したのです。きっと一人一人が何かを見付け、やればできるということを体で学び、自分に自信がもてたからだと思います。これから先子供たちにとつて益々苛酷な世の中になるかもしれません。だけどモウ一モウ一塾で学んだ知恵や勇気、友だちの輪を大切にしてがんばってほしいと、心から願っています。そしてこれからも多くの子供たちにこのような感動を分けていきたいと思います。

く様子は、みんな立派なフロンティアでした。

りする程でした。また働いた後で自分たちで搾った牛乳を飲んだ味は、格別でした。農家の方たちのおかげでめずらしい焼畠も体験することができました。教科書の中

でしたが、知らなかつた燃烟を実際に見たのは、本当に貴重な体験でした。枯草のおい繁る山の傾斜に火を放ち、その火がしだいに大きくなつてゴーゴーと音をたてながら私たちに向かってきた時は、火が

とても恐ろしく、そして偉大に見えました。その後みんながクワを手に烟をつくりました。手にまめをつくり汗を流しながら懸命に働く

たからだと思います。これから先子供たちにとって益々苛酷な世の中になるかもしれません。だけどモウ一モウ一塾で学んだ知恵や勇気、友だちの輪を大切にしてがんばってほしいと、心から願っています。そしてこれから多くの子供たちにこのような感動を分けていきたいと思います。

# "BBS って何?"

松山市

仙波道枝



仙波道枝さん

「BBS って何?」これは、私がBBSという会に入つて幾度となく聞かれたことです。

どこの放送局の略だとか、お酒の種類の頭文字か??::だつたり、最初の頃は十人中十人とまではいかないまでも、それに近い割合でした。

BBS運動とは、Big Brothers and Sisters Movementの略で、地域社会の中で大きな問題を提起している「非行」と取り組んでいる青年ボランティア運動です。もともとはアメリカが発祥の地ですが、日本では昭和22年、京都の学生が中心となつてはじまりました。

BBSの言葉も全く知らなかつた私がこういう活動に入るきっかけになったのは、職場の先輩に少年院のもちつきに誘われたことで

した。やはり、少年院というものに興味もあつたし、あまり深く考へもせずに参加したのでした。

最初に院生と会つた印象は、何か問題をおこした子にはとても見えなくて、むしろきびきびした態度がとてもさわやかな感じさえしました。それから10年あまり、この年末の行事は恒例となり続けられています。今では、参加する会員も増えたために、当時はもちつきだけで終わっていたのが、ゲームなどのレクリエーションを取り入れた交流会となつていています。

少年院の先生がある時「院生たちに遊びを教えてやってほしい。」と言われた事がありました。最近の子供たちは「遊び」を知らないと…。ファミコンの流行で外で遊ばないようです。遊びを通してよ

い仲間づくりができるものだと思っています。

最近の青少年の生き方は、自分の幸福追求にのみ重点が置かれ、社会奉仕といった面への指向が弱いといわれています。現代社会は、人々の連帯意識が薄らぎ、孤立、疎外等、共同社会が崩れつつあります。ボランティアの組織が強化整備され、地域社会の様々な福祉問題の解決に参加協力するときは、周囲の無関心な人びとも問題の在りかを知らせ、関心を抱かせ、地域ぐるみの運動へと発展することが可能だと思います。

BBS運動は、ともだち活動、非行防止活動、研さん活動の三つを実践活動として掲げています。基本的には、少年の幸福を願う気持ちと、健全な成長に役立とうという意欲であると思します。

ともだち活動から得られる最大のものは、少年との友情でしょう。もちろん自然発生したともだち関係でなく、故意的なものなので必

ち活動であり、具体的には非行の

あった少年やそのおそれのある少

年に兄や姉のような立場で接しな

がら、やさしくその立ち直りを助

ける運動です。この活動を行うに際して、留意することとして、愛情と関心を失わないこと、よい聴

き手になること、秘密と名誉を守

ること、少年の能力を信じること、落胆に耐えること、等あります。

専門家の活動ではありません。

ずしもすべてが成果のあるものばかりではありません。ともだち関係が失敗に終ることもあります。

こんな時、自己嫌悪に陥る場合も多々あります。少くとも、とまだ活動から、そして少年からいろいろなことを学ぶことができます。自分の知らなかつた一つの社会とか、環境とか、人生についての視野を開くことができ、また人間と人間関係について考えたり、知つたりすることができます。私が以前担当したケースです。

彼女は十九才、色白の美人タイプ



の子でした。窃盗で保護観察処分をうけていました。実際に会えたのは二度ほどだったと思います。

次に会う約束をした後、家出をしたのです。つきあつていた男性と一緒に暮らしているという事でした。その後、保護司の先生から二

人が結婚したことを見聞き、私のともだち活動は終了しました。それからしばらくして、彼女から暑中見舞のはがきが届いたのです。そ

の時の気持ち、何といつたらいいのでしょう。ほんとにうれしかつたです。

BBSというのは、すぐに答え

の出る活動ではないと思います。

少年が、ずっとになって自分の人生を振り返った時に、「ああ、あのとき自分のことを真剣に考えてくれた人がいたなあ。」と思ひ出してくれれば…。そして、その時初めてBBS活動の効果があつたといえるのではないかでしょうか。

人生は、人の巡り合いです。非行に走った子供たちは、よい大人に巡り合えなかつた不幸から始まっているといえるのかも知れません。

愛し愛されたい、ふれあいたい、認められたい、これは人間の基本的要素といわれています。以前ある研修会に参加した時、不純異性交遊のケースをもつていてBBS会員から少女の話が出て、彼女はその人だけが自分を認めてくれたから…といっていたそうです。人は一人では生きていけません。だからこそ人間同志の関り方がいかに大事か考えさせられます。

「過去をもつものには別の温かさもある」受刑者を雇用しているある社長さんの言葉です。恵まれない環境でちょっとしたはずみから不幸にして非行に陥った少年たちは、誇りや希望を失っているかもしれません。しかし彼らの心の底には必ず「善」があるのだという確信の下、断続的な活動を行うことにより、少年に良い影響を及ぼすことができるのです。

「正岡子規」これには参りました。「非行」の背景にあるものは何なのでしょう。地域社会の中で、ほんの小さな“思いやり”そして“察し”的心が必要なのではないでしょうか。まわりの人間誰もが皆BBS、大きなお兄さん、お姉さんであつてほしいと思います。

いたのですが、徳島の阿波踊り、香川の讃岐うどん、高知の土佐弁そして愛媛は…?でいきなり顔を横に向け口をふくらませながら、「正岡子規」これには参りました。「非行」の背景にあるものは何なのでしょう。地域社会の中で、ほんの小さな“思いやり”そして“察し”的心が必要なのではないでしょうか。まわりの人間誰もが皆BBS、大きなお兄さん、お姉さんであつてほしいと思います。

先日行った少年院でのスポーツ交流会での事。昼食を院生と一緒に食べていた時の会話の一コマで、出身県の話になり、それぞれが自分の県の特徴を言い合って



# 子ども達とのかかわりの中で

松前町

(きやんでい)

西岡 真理



今日は何人の子どもが観に来てくれるかなー。上演前はとても心配でハラハラドキドキ、でも照明がパツとつき、音楽が流れ始め、子ども達の食い入るような眼差しを見ると、その心配も吹き飛び、今日も来て良かったなと感謝感激。子ども達に親しんでもらおうと名付けた「きやんでい」も活動をはじめて早くも四年、保母という職業につき、同僚と悩みや考えを話し合っているうち、ある日突然、よしやってみようと出来上ったグループです。といって私達に何ができるのか、何をすればいいのか右も左もわからない状態で、かなりの時間を割いて話し合った結果、ボランティアということを前提に、子ども達に夢を与えることができるように活動をしよう、しかも保育所という限られた場所で子ども達に夢を与えることができ

りの時間を作りたかった結果、脚本から音楽、衣装、舞台装置と一人何役もこなしながら、時には人形劇やミュージカル劇をひっさげて、公民館を回ったり、時には紙芝居を持つて公園へと出かけ、成果を観てもらっています。

はじめは地域の中で活動を続けるといつても、地盤の何もない所もあり、しかも女性ばかりといふことで、なかなか受け入れてもらえず、さらに自分自身も、確信がもてないまま、ただやるしかないとがむしゃらに突っ走っていました。それでも、子ども達の目輝きはいつも同じで、私達のような素人でもやればできるんだ。次は何をしようかと、回を重ねるたびに、私達の活力源であり、支えとなっています。また親子で楽しんで下さる方も増え、「次はいつ上演するのですか。」「これ、劇に使つて下さい。」など、少しずつ「きやんでい」の活動を認めてもらえるようになり、名も地域に浸透しつつあります。

今までの活動を通して思うことは、職業として子ども達に接する

中で自分達の仕事とタイアップしながら、自分自身も向上でき、充実感を味わうことができる活動ということで現在以致っています。

あくまでも手作りということで、

機会が多いわりに、地域に出て、広い視野で見てみると、なんてわからないことばかりなのだろうとつくづく思い知られます。また、最近の子どもは、塾に通つたり、ファミコンをしたり、外で遊ぶことが少なく、想像性に欠けたり、友達とかかわって遊ぶことがなくなってきたといわれますが、決して落胆的に子ども達を捕えたくないなと思うのです。一生懸命私達が取り組めば、目をキラキラ輝やかせて反応を示してくれますし、これから地域を活性化し、良しくていこうというのなら、次の時代をになう今の子ども達を大切に、しかもこの目の輝きが失なわれないよう地域が育てていかなくてはいけないと思うのです。公的な所だけで子どもをとらえたり、反対に、核家族化の進んでいる現状で、家庭だけで育つというと疑問を感じます。こういったことで、「きやんでい」が、心を育てるという分野で、少しでも役に立てばと願っています。また、その為にも少しでも良いものをと、自分達なりに

試行錯誤しながら頑張っています。とにかく何のベースもない状態で始めましたから、まず行動を起こし、自分自身を改革しながら子ども達にぶつかっていかなくてはいけないと考えています。これでないと、私にはできないと考え始めたら終わりだなど、また私自身が夢や希望をもつて、いきいきと輝いていなければ、人を感動させることは難しいなと思います。

しかし、活動をしていく上で、問題はいろいろと出てきます。仕事とのかね合い、女性ばかりですから結婚等事情によりメンバーに入れ替わり、続けていくことの難しさをつくづく感じますし、さらに入れ替わる、続けることの難しさをつくづく感じますし、さらに、若者が文化的な活動を自主的に行なっているグループは少なく、特異な感じで思われていることが多く、いろんな人達に、理解してもらえるよう話し合ったり、協力を求めるのに時間がかかります。子どもに関する問題だけにとどまらず、地域を背負っていると言えば言い過ぎかもしれません、それが時には負担に感じたり、そこ



まで考へていかなくてはいけないのか…とメンバーの間で話し合うこともあります。名前が知られるようになればこの事は大きく私達にのしかかってきます。

ただ最近、ふるさとづくりとか、地域の活性化の為、市町村単位でいろいろな取り組みが行われるようになり、我町でも、「きやんでい」が頑張っているから、青年教室で劇活動をしてみようとか、青年団、ひいては町行事に参加する機会が増え、波紋が広がっています。東京に生まれ育った人達、とりわけ下町の人達は情も厚く自分の住んでいる町を大切に思っている。東京に生まれ育った人達、とりわけ下町の人達は情も厚く自分の住んでいる町を大切に思っているのは、地方から出てきた都会人なんだ。だからどこであろうと、自分の生まれ育った所に愛着を感じられるようになりたい」と。私は、思うのですが、子どもにかかわっていく以前に、自分の住んでいる町を好きになり、愛着を感じるということが大前提であり、地域の未来を考える出発点だと思うのです。

# 子供たちとのふれあい

(関前夢俱楽部)

吉田光枝

私にとって、子供たちとのふれあい、子供を通した活動とは?と考えてみました。それは、学生時代に多く経験しました。そこで、話はちょっとさかのぼりますが、私の学生時代の事を始めに書いてみたいと思います。

私は二年間の学生生活を、京都で過ごしました。その二年間、「児童文化研究会」というサークルに入つて、児童文化財を通して子供たちと接する活動をしていました。

サークル内には、子供会班、福祉班、人形劇班という三つの班があり、全員がどれかに属していました。そしてそれぞれの班の自由の活動と、部員全員が協力してする活動とがありました。

私は子供会班でした。そのため祉班、人形劇班という三つの班があり、全員がどれかに属していました。そしてそれぞれの班の自由の活動と、部員全員が協力してする活動とがありました。

直接に子供たちと接する機会が多くありました。それは子供会班独自の活動として、毎週土曜日の午後、大学近くの公園に行つて、その公園に来ている子供たちと遊ぶ活動をしていたからです。初めて先輩達に公園に連れて行つてもらつた時は、戸惑いや何か恥ずかしい気持ちでした。でも、少しずつ子供たちとも仲良くなれると、土曜日の午後が楽しみになるようになります。

全体の活動として、人形劇公演や紙芝居、素話やゲームなどもありました。これらの活動は、就職してからも、そして現在もけつこ役立っています。もちろん、子供たちと接する場合にも…。

中でも、子供たちに感動をさせたり、夢をあたえる事のできるのは、人形劇だったと思います。紙芝居やゲーム、遊びなども、子供たちはとても喜んで楽しくやってましたひとつ違う感じがしました。

人形劇には、子供たちもとても興味を持っていたし、一生懸命に集中していくつも見ていたようです。舞台のウラで人形劇をやっていて子供たちの様子を感じる事もよくありました。そして人形劇が終わつた後の子供たちの顔、印象に残つています。学生の私たちの人形劇

卒業後、京都で保母をしていましたがJターン。現在の関前夢俱楽部に入つて一年ちょっとです。そこで今度は、地元での子供たちとのふれあいや活動について書いてみます。関前夢俱楽部では、去年の十二月に、地域の子供たち(小道具まで全部、自分たちで作り



Merry Christmas

学生と保育園児）対象で、クリスマス会をしました。もちろん初めてのことでした。夢俱楽部で何か子供たちにできることやってみようじゃないかということで動き始めました。

当日までの準備では、離島センターの玄関前の二本の木に電飾をつけたり、会場の壁面飾り作り。子供たちへの案内状を作ったり、進行のプログラムや役割分担の打ち合わせ。毎日の仕事を終えた後集まって少しずつ少しずつですが準備していきました。メインになれるクリスマスツリーに苦労しましたが、会長さんの協力で、とても

「やってよかったです」と私は思いました。そして、集まってくれた子供たちといっしょにゲームをしたり、歌をうたったり、キャンドルサービスをして、短い時間だったけど楽しく過ごしました。もちろん、サンタクロースさんも遊びに来てくれました。プレゼントのケーキとジュースをたくさん持つてね。

クリスマス会をやってみて、本当によかったです。子供たちが喜んでくれた事は言うまでもなく、私たち夢俱楽部のみんなが一致協力して、ひとつのことやれたという事もすごくよかったです。思います。また、私自身としては日頃、特に接する事の少ない閑前の子供たちと、このクリスマス会をきっかけにして、少しでもつながりが持てた事です。ほんのささ



きました。もう、それだけで、「やってよかったです」と私は思いました。そして、集まってくれた子供たちといっしょにゲームをしたり、歌をうたったり、キャンドルサービスをして、短い時間だったけど楽しく過ごしました。もちろん、サンタクロースさんも遊びに来てくれました。プレゼントのケーキとジュースをたくさん持つてね。

クリスマス会をやってみて、本当によかったです。子供たちが喜んでくれた事は言うまでもなく、私たち夢俱楽部のみんなが一致協力して、ひとつのことやれたという事もすごくよかったです。思います。また、私自身としては日頃、特に接する事の少ない閑前の子供たちと、このクリスマス会をきっかけにして、少しでもつながりが持てた事です。ほんのささ

いな事ですが、クリスマス会のあとは、傷つけないようなかかわりある方をして行きたいです。何もかかれてみたいのは、やっぱり人形劇。学生時代、ほんの少しだけ度の子供たちに、夢や感動を与えたものをぜひこの閑前村でもやったことがあるだけですが、京都市で会った女の子が私に「あつ、たら…」なんて不安もあったのですが…。当日は、たくさんの子供たち（ほとんど全員）が参加してくれました。もう、それだけで、「やってよかったです」と私は思いました。そして、集まってくれた子供たちといっしょにゲームをしたり、歌をうたったり、キャンドルサービスをして、短い時間だったけど楽しく過ごしました。もちろん、サンタクロースさんも遊びに来てくれました。プレゼントのケーキとジュースをたくさん持つてね。

今年もまた、クリスマス会を計画しています。現在、打ち合わせと準備にとりかかっています。今年は中学生も参加できるような事を別に加える予定で進めていきます。

今年もまた、クリスマス会を計画しています。現在、打ち合わせと準備にとりかかっています。今年は中学生も参加できるような事を別に加える予定で進めていきます。

そして、これからのこと。今後地域づくりにつながるような子供たちとのかかわりについて考えてみます。子供たちが本来持つていて、夢や感動する心を失わないよう

な、傷つけないようなかかわりある方をして行きたいです。何もかかれてみたいのは、やっぱり人形劇。学生時代、ほんの少しだけ度の子供たちに、夢や感動を与えたものをぜひこの閑前村でもやったことがあります。これは、私が自身の夢みたいなものかもしれません。他には、子供キャンプ、ハイキング、ちょっとしたスポーツレクリエーションなどもやってみたいですね。私自身が、キャンプは経験してとてもよかったですけど、というと手前味曾ですけど、夢や心を育てるような事はとても難しいけれど、子供たちに、いろんな体験をさせるのもとても大切な事だと思います。

とにかく、私にとってはまだスタートしたところです。少しずつ少しずつ、ゴールをめざして確実に進んでいくように、これから活動をしていきたいと思います。

● 日本最南端の領土

日本最南端の小島「沖ノ鳥島」を存続の方は少ないとと思うが、最近、この護岸工事が終了した。沖ノ鳥島は、東京都の南約千七百キロの北緯二〇度二十五分、東経三六度五分に位置し、満潮時に大小二つの岩が海面上にわずかに残るだけの無人島である。浸食がすみ水没すると「領土」でなくな。

り、周辺四〇万平方キロの経済水域を失うため護岸工事を施した。たとえ地図に載らないような存在であっても、日本の利益には計り知れないものがある。

● 島とは

一体世界にはどのくらいの数の島があるのだろうか。これは、島の定義にもよってさまざまだらう。

## 島を考える国際シンポジウム'89ひろしま'から

(財)愛媛県まちづくり総合センター

豊田涉

〔総括報告〕

東京女子大学教授 森本哲郎

今まで島という観念がいろいろなものごとを考える時に欠落していたのではないか。いま改めて地球といつたものを大局的に眺める時、海からの発想というものが問われなければならない。

今後、島をどういうふうに考えていったらしいのか、また世界を見なおすときにはどういう観点が必要なのかということについて述べみたいと思う。

地球の人口は五〇億とも六〇億ともいわれている。人口の爆発とともに島でしかいない。

「ポジウム」が広島市で開催された。

「島の自立と豊かさの創造、開かれた発想と相互協力を通じて」のテーマのもとに、国内はもちろん海外からも大勢の参加者があつた。受付で同時通訳機を手に会場内へ。事例報告や分科会の討議がなされ、今後の島づくりや島の果たすべき役割および国際交流・協力の方法について意見交換があつた。

日本語で離島というが、英語ではすべて「アイランド」で翻訳される。離島というのは日本の発想であり、島はあくまで島なんだとう離島的観念を払拭する必要がある。離島というと外海から孤絶した閉鎖的な遅れた社会ではなくもつと積極的に島というものを改めて活性化させる、見なおすといふことが課題ではないかと思う。

北欧諸国は海に囲まれているが世界でもっとも恵まれた社会になっている。島というものの力によって新しい豊かな社会というものが、逆に築かれているという実状といふものを認識しなければいけない。

十月二～四日にかけて、世界でも初めての「島を考える国際シン

本も島でしかない。

大陸以外のもの」とある。世界的に見てみると、五大陸を除きグリーランドよりも小さいのを島と捉えている。ここではもちろん、日本も島でしかない。

○万人が生活している。

十月二～四日にかけて、世界でも初めての「島を考える国際シン

本も島でしかない。

文明は島から出発したといってもいい。たとえば、古代で言うとエーゲ海の島々というものが地中海の中で歴史的役割を担つたことはいうまでもない。そういう点から考えて、島は情報の発信地であり文明の発祥地もあるという認識をまず、根本に据えてかかることが必要だと思う。

歴史的に考えると、イタリアの

## コーディネーター、パネラーを交えて

(パーティ会場にて) ▷



## 会議の行われた △ 國際会議場



な舞台となっている。

最近、アジアでは島であり島を持つ台湾、香港、シンガポールなどの国々が脚光を浴びている。そして、アジア経済の一端を担っている。それは今後、アジアに限らず世界中の島々が、どういうふうに島を活性化させるかということによって世界史を変えるほどの大きなエネルギーを秘めているといふことを意味している。

### ● これから島の役割

日本においても、島の果たした役割というのは歴史の上でも明らかである。日本が外敵から攻撃された時、その最前線となつたのは島であったと思う。古くは元寇に始まり数々の戦いがあつた。また、日本を開国に向け尽力した人物の一人土佐のジョン万次郎は漁にて漂流したのち、伊豆諸島の鳥島にたどりつき、そこで、アメリカの捕鯨船に救助された。これで見るかぎりでも少なからず島の果たした役割というのは大きいものがあると思う。

シチリア島こそローマ帝国を築く第一歩であった。この島でローマとカルタゴとが戦い、結局ローマがシチリア島を支配し、それによってローマは大きくなつていった。歴史は地中海を舞台に始まり、やがて大西洋時代になり、いまや太平洋時代になつたと言われる。そういう意味からいっても、海というものが一つの地球の実状といふようなものの一番シンボリック

日本の中には昔から「離島」とか「へき地」とか呼ばれてきた。島は閉鎖的な所、淋しい所などと暗いイメージがつきまとつてきた。最近は、田舎思考とかリゾート開発などで見なおされてきている。それにしても、「離島」「へき地」という呼び方は、あまりにも淋しく、温かみのない言葉なのだろう。もう少し意を得た言い方はないものだろうか。

これから、島の重要性がいよいよ脚光を浴びてくるだろう。二十一世紀は、島をどのように活用しそうかとにかくかかっているのではないかと思う。

※シンポジウムの内容について  
てもう少し詳しく知りたい  
方は当センターまでご連絡  
下さい。

# 第4回シンポジウム『人間と鉄』 …鉄の歴史村からのレポート…

(財) 愛媛県まちづくり総合センター 井 上 謙 二



オープンエアーミュージアム

## ♣ プロローグ

世界の「鉄の歴史村」を宣言し、「村中を博物館にする」ための文化戦略に取り組んでいる島根県・吉田村。日本一と言われる出雲の玉鋼を生産した「たら製鉄」の伝統を礎に、鉄に関する知識・情報の集積をはかるために昭和六十一年から開催されているシンポジウム『人間と鉄』は、今年で第4回となる。特にソフト面からの未来戦略を担当ものとして跡鉄の歴史村地域振興事業団が昨年設立され、

その主催としては今回が初めてとなる。何かと学ばされることが多い藤原さん達の現場をこの目で見てみたい、そして、今後の未来戦略がどう展開されようとしているのかを知りたいとの思いで、中国山地を越えて初めて吉田村を訪れた。

オープンエアーミュージアムにある真新しいコンベンションホールは、木材をふんだんに用いた建築で、玄関ホールを挟んで右に大ホール、左に小ホールとその奥に事業団の事務所がある。梁の構造は、金具を多用した逆三角形をしており、ワイヤーで引っ張ることによって支えているのが目につく。

## ♥ シンポジウムから

シンポジウムの内容は、一口で言えば「世界における新しい鉄の技術」と、吉田村の和鋼生産実験炉で伝統的たら製鉄の技法により創られる「現代の鉄の可能性性」、そして、奥出雲の六市町村による広域的な取り組みとなる「リーディング・プロジェクト『鉄の道文化圏』構想の基本理念を確認」しようとするものであったようだ。

過去、第一回『古代製鉄の道』、第二回『鉄生産の原風景』、第三回『周囲民族にみる製鉄技法と原材料』と、世界的な視点から鉄の歴史や文化を正しく保存・公開しようと

してきた。こうした一連の流れの中での今回のテーマは『純鉄と新しい鉄の世紀』であり、現代の製鉄化学を技術的に捉えて、二十一世紀へ向けての方向と可能性を探ろうとするものであった。

## 【新しい鉄の技術】

井垣謙三／東北大学名誉教授は、「古代の鉄はなぜ鑄びないか」というテーマで、鉄の純度と含有物の量によって鑄びにくい鉄をつくることが可能だと発表された。奈良・鎌倉・室町時代の鉄と現代の鉄では鑄び方に差があり、また、同じ状態においてものでも鉄によって鑄び方が違うことから、鉄の純度を高めたり、マンガン・イオウなどの含有量などの面から、「鑄びない鉄」をつくる実験を続けられている。

## 大野篤美／千葉工業大学教授・トロント大

学校教授は、「新しい鉄をつくる」と題して、鉄の溶融と凝固の視点から未来技術への展望を語られた。つまり、鉄が最初に凝固する铸造段階において形成される組織が、うろこ状になつて折れやすさやもろさにつながることに注目し（結晶遊離説）、鋳型を熱くするなどによって金属を単結晶で連続して铸造する「O·C·C・プロセス法」を開発された

のである。この方法によって、光沢がありしかも折れにくい金属が現に造られているのである。

### 「鉄の道文化圏構想」

山内登貴夫／鉄の道文化圏総合プロデューサーと飯田賢一／東京工科大学教授のお二人からは、「リーディングプロジェクト『鉄の道文化圏』構想」について、

その意味するもの、ねらいと進め方への提言がなされた。

このプロジェクトは、安来市・庄瀬町・大東町・吉田村の六市町村が、鉄の歴史のみならず、奥出雲全体の歴史、文化遺産等を共通のものとして捉え、未来の子供達への遺産としての“風土”を築きあげようとするもので、自治省の推進事業でもある。具体的には、産業考古館などの施設整備や出雲神話などを広域的に連携させながら、独自の地域文化を育てようとしている。

「ここで大切なことは、世界の歴史や人類の精神のつながりの中から奥出雲や鉄を考えることであり、世界の中で、あるいは歴史の

流れの中で我々がどのような関わりをもつて今日があり、かつ将来もあるうとするのかといつた視点が重要である。

「このプロジェクトに何を期待するかといえば、一口で言うと、次の世代を担う若者が

それによってどんな日本、あるいはふるさとを築いて



### 「新たたらの鉄を語る」

このほか、オープンエアミュージアムにある実験炉で実験操業が繰り返される中から、伝統技術と先端技術の融合による新しい「たら製鉄」によって現代の和鋼がつくられた経過を記録した映像が紹介され、その和鋼から鍛治師・池田辰男氏によって

包丁に、鋳物師・長野烈氏によって茶の湯釜が試作された。フィールドフォーラムでは、この両名に、和鋼の生産研究に携わった鉄の歴史村地域振興事業団の白築信義さんと㈱吉田ふるさと村の高岡裕司さんがパネラーとなり、実際に用いた“現代のたら製鉄による和鋼”がどうだったのか、その問題点や可能性について現場の感想をふまえて話し合われた。

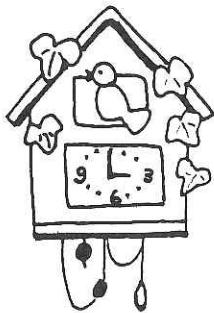
言えることは、参加する市町村全體が、基本的な思想なり共通の理念を持つということである等の提言がなされた。

### ♣ 一つの感想として

地域の歴史的な文化遺産を、世界的に、歴史的に、さらに言えば人類史的に学びとりながら、新しい技術やこの地域での生き方を追求し、着実に実践していくとする吉田村の

未来戦略の一端を、そこに垣間見ることができきた。

そしてこの文化戦略を支えるのが、藤原さんのもっとも大切にされている“知的ネットワーク”であり、世界にむけて情報発信していこうとする、「鉄の歴史村」のコンセプトの確かさであろう。経済的な戦略も含めて、しっかりとしたコンセプトがある。それが絶えずローリングされ、学習・研究されることによつて、人が育ち、着実に実践されてゆく。その先にあるのは、人類史の延長線上にある吉田村の今を生きる人々の暮らしと、将来を生きる子供たちへの遺産としての吉田村の存在意義といったものであろうか？



藤原さんの未来戦略のその先にあるものを知りたいとの新たな疑問を抱きながら、瀬戸内海の短い船旅を最後に、中国縦断の鉄学の旅を終えた。



#### ◆エピローグ

それにしても、菅谷高殿でたたらの仕組みや事業団の考え方などを、淡々と、かつ明快に語つていただいた事業団の若き職員の姿勢には、好感を覚えるとともに、「そういう人が居る」ことにこそ、もう一つの重要な意味があることを、しみじみと考えさせられたのである。

研究会議会員の矢野徹志さんからのインフォーメーションです。

彼が代表をしている砥部町のアートの里づくり会議では、地域の特性を活かしたまちづくりをすすめるため、砥部の里をアートと出会える里としてとらえ、「アートの里は如何にして可能か？」をテーマに、左記の日程で「アートの里フォーラム」を開催する予定です。会員の皆さんを始め、たくさんの方々のご参加、ご協力をお願いします。

## まち・むらナウ

### 記

一、日時 平成二年一月二十一日(日)  
10:30～16:30

二、場所 伊予郡砥部町大南  
砥部町商工会館

三、日程 ○全体講演(10:30～13:00)  
講師 福田繁雄  
(デザイナー)

○特別展(伝産会館)  
○アートの里フォーラム  
(13:00～16:30)

基調報告 矢野 徹志  
パネラー 沢田淳・小坂三  
国・山田節子・檜皮孝夫。  
佐藤靖雄

# 八西地区地域づくり交流集会

(財)愛媛県まちづくり総合センター

石川元英

## ◎ 八西地区的 地域づくりの取組み

八西地区（八幡浜市、保内町、伊方町、瀬戸町、三崎町、三瓶町）は、二年程前より欧洲最大のリゾート地として有名な南仏のコート・ダ・ジュール地方を手本に「佐田岬コート・ダ・ジュール構想」を策定して広域観光の開発と地域産業の活性化によるまちづくりを目指している。

八西地区は、メロディーラインという一本の線で結ばれた訳であるが、佐田岬を中心としたこの地区が全国にアピールするためにも、また「コート・ダ・ジュール構想」を現実に近づけていくためにも、各地域に隠されている資源、人々の活動などを、掘り起こしていく作業が必要であろう。そのなかで、各地域の人たちが共通認識をもち連鎖的につながりをもっていく、その時初めて佐田岬の魅力が全國に誇れる地域として生まれる。

そういう中、去る九月一日く九月九日にかけて、西宇和郡内の役場職員十人で佐田岬の広域観光リゾート地づくりを推進するため、先進地としてニース、カンヌ、ツーロンのほか、パリ、モナコ、ジュ

八西地区的地域づくり研究会議員が中心となって「十三里いもの会」が発足した。この面々が地域の人たちによりかけ、平成元年十一月十一日のこの日、八西地区一市五町から四十名ほどの強者たちが、西宇和郡瀬戸町神崎に集合した。

佐田岬半島を核としたこの地域内での市町をこえたネットワークづくりをめざし、地域づくり交流集会がもたれたのである。

三瓶町 十人会 前田剛志

三瓶町の商工青年部を中心農業者、漁業者、サラリーマンの人々で構成され活動している。

今まで、目の向けられなかつた地元の産物（ハギ、チエリーオレンジ）を、目先を変えた販路の開拓によって、三瓶町がアピールでき、産業振興になればと頑張っている。これからは、魚の蓄養など、さらに町の活性化をめざし、

かやつてみようと活動が始まった。船を借りて四国一周を企画・実行してみたり、みんなで出資して焼肉屋を開業したり、とにかくみんなで楽しみながら活動を続けていれる。自分たちが楽しければ、町の人たちも楽しいのじやないだろうか……?

## ※ 集会報告

### ○ 事例発表

保内町 とうぼ21

西園寺 賢一

保内町の商工会青年部を中心構成され、現存の組織である役場、商工会などではできないことを何

勉強していきたい。

このお二人の報告は自分サイズで精一杯の活動であるだけにみんなに深い感銘を与えるとともに大いに集会がもり上った。

そして、六グループ編成で、「産業振興」をテーマに熱い討論がなされた後、松山大学の原田満範先生より講評及び総括講演へと続いた。

「産業振興」というと、短絡的方法として観光開発という側面があるが、これは地域のイメージアップや存在感をあらわすのにはいいが即それが金を運び、落としてくれる訳ではない。実際、産業振興にまで結びつけていくためには莫大な力（財力）が必要になる。地域の活性化には、やはり他地域、特に都会からどれだけ金・人を呼び込むことができるかであろう。そのためには、自らの地域にある素材を見つめ直し、自分たちで勝手に判断するのではなく、消費者ニーズなど広範な情報分析を行い、広い視野にたって、どれだけ独自

の付加価値をつけていくかである。とアドバイスをいただいた。

その後、本番とも言うべき交流会に突入した。佐田岬の長い夜が始まったのである。

以下、グループ討論の司会を務めていただいたいの方々よりの「五〇〇字コメント」で報告に代えさせていただきます。

#### 伊方町 松本 実幸

「産業振興」を研究主題として初めて開催された交流集会であるが、私自身、何の予備知識も持たずして参加したため、予想どおり、私が司会した第六班は支離滅裂で終わってしまった。然し、同行いただいた「がいな塾」の山本睦夫・松田光一両君の静と動に亘る活躍のおかげで何とか助かった感じである。

さて、今回集まつたメンバーはいずれ劣らぬ仕掛けばかりで、それぞれにビジョンを持ち、個人的に課題を引き上げているため、開

会当初から、通常の集会とは熱気があががっていた。

産業の振興を語る上で私流に解釈すれば、何はともあれ、先ず危機感がその根底になければならず、生産団体、行政にどのようにインパクトを与えるか、そのためには先ず人づくりが基本となる。

とにかく、こうした集会を通して、ネットワークづくりをすすめ、情報を交換する必要があり、そういった意味からも、今後も定期的に開催されるであろうことを期待し、楽しみにしています。

#### 瀬戸町 浜松 義俊

晩秋とはいっても汗ばむような秋晴れ、まず喜ばしい事は、天気と参加者の楽しそうな笑顔が拝見できたことが場所提供の町としてのおかげで何とか助かった感じである。

開始前は不安な気持ちがあったが、事例発表でこの会を開いてよかつたと思う。二人の発表者は、この地域で今一番望まれている新しいアクション「新時代の共同事

業」「一次産品の流通開拓」は、各種団体、組織の体质改善は元より地域活性化の希望の起爆剤になつたことと思われる。

参加者の多くは、国の内外事情に翻弄され当事者不在の社会環境に不満を持っており、グループ討論の中では事例発表を参考にした現状不満の意見が多数出される。

論点は、体制への不満・批難が結論として、地域の活性化は、「自ら行う」自分達の地域は自分で頑張ることが、地域づくりの根本であることに合意が得られ希望の光が見えたように思えた。

本日の討論テーマ「産業振興」は、今まで、異業種間の意見交換の場が少なかつたせいか、本音の話が多く言葉づかいの遠慮はあっても前向きで、自分で何かをやりたい」「自分で何かができるのではないか」このような気持ちに誰もがなつたのではないか。

交流会においてもグループ討論の延長となり、予定より長時間の賑わいは、会に参加した存在を確

## えひめ地域づくり研究会議

認するかのような自己表現があり、次への活力を感じられた。

この交流会は、地域づくりの感覚研修として意義あるものであつたが、同時に私自身多くの勉強をさせて頂いたことが何よりの収穫と思っている。

次期開催の要望の多い中、ユニークな実施に奮起致したい。

八幡浜市 井上 保明

今回の集いは、八西地区全体の町おこしに関心の深い人々が、各地域より全員出席するという、今まででは考えられない集いでした。町おこしは、今や時の流れとなり久しいけれど、この地域においても、バラバラな思いで開催され、必ずしも十分な成果が上がつてゐるとは言えず、今後に対しても、危機感のみで、具体的な方向・理念となると霧の中……。という、なんともうら寂しいのが現状と思います。そんな中で、行政の枠を越えて各地域をネットワーク化し、共に学びあい、協力し、連帯しあつ

ていくのを確認しあえたことは、個人的な歓びというのではなく、この地域における画期的なことだと思います。

今回の成果が起爆剤となり、この地域においても、全国レベルに負けない町づくりが、必ず出来ると確信しました。中央から見れば、田舎者のたわごとと一笑に伏す程度の地域のネットワークかもしれないと驚くばかり。

田舎者のたわごとと一笑に伏す程度の地域のネットワークかもしれない。でも、そんな田舎にも、人材は育っていることに、感激した一日でした。

三崎町 塩崎 满雄

つわぶきの花が可憐に見えた文化の秋、こんな心境になつたのは十五年ぶりである。

半島時間によつて幕が開いたこの集会、常連の顔を見て安心感が……。

初対面の仲間を見て不安が……。しかし、手にした資料の表紙を見て、気持ちが不思議と落着いた。“これならいける”と思うや、強烈なパンチが二発。二人の事例発表だった。

実際に生活としてやつてゐる人の話にはいつも感服させられるが、今回の発表は地域にあつた話です。又、グループ討論、講演と続き、こんな場所で、こんな充実した仲間づくりや、町づくりができるのかと驚くばかり。

自分の住んでいる町、むらが好きでたまらないのは、私一人ではなかつた。

ともかくにも、四十名の“やる気”を感じた八西地区地域づくり交流集会であったのは、誰もが感じたことでしょう。

日本一細長い佐田岬半島に日本一やる気の人達が集まつた。どこにも負ける事はないでしょう。

これからも郷土のために！

保内町 谷口 治庄

現実に目を向け、夢を語り、発想の転換を図りながら佐田岬地域を考えみてみよう、交流集会では熱っぽく議論がかわされた。農業、商業、漁業等に従事しながら、イ

ベント、人づくりなど地域活動を起こし、町づくりを考えていることに感動を覚えると共に佐田岬地域は「一つ」の意識を持たねばならないことを痛切に感じた。

また、「産業振興」というテーマのなかでのグループ討論であつたが、「なぜ私たちの地域の産業は立ち遅れているのか」「メロディラインは観光と地域の産業の活性化に結びついているのか」。地域

おこしは、産業の活性化が基本であるが、佐田岬地域はそのための基盤が弱いため悩みは大きく、そのため、既存ルートに束縛されない流通体系の確立、人や物の交流を深めながら地域情報を発信し佐田岬地域のイメージを高めていく必要もあるのではないかと思う。

この交流集会を契機に地域のネットワーク化を図りながら、それぞれの町や地域の活力を全域の「地域づくり」「産業おこし」へ集約することができるならば、四国西端「佐田岬地域」が注目される日も来るんだと、期待に胸ふくらませた一日でもあつた。

# 遠交近交の戦略

新居浜市政策研究室

森賀盾雄

四国通産局が新しいビジョンを三年がかりで作成した。「活かせ！本格架橋時代」というタイトルである。従来にない味わいのあるビジョンで行間に苦労の跡がしのばれ楽しく読める本であり、是非皆さんも読まれたら。その中に「遠交近交」の戦略とあり、この考えは将来のまちづくり戦略にとって極めて大切なことでしょう。

私は十八年前に「地域社会を見る眼」として二つのこと書いたことがある。一つは「地域とは遠くて近いもの、近くで遠いもの…この二つの感覚を統一していくもの」という指摘。もう一つは「地域社会とは、学者が一つの視点で（例えば新居浜は企業城下町なので大企業がいかに支配しているか）だけ分析したのでは、市民の生活の生きがいと展望は出

りにしていった。企業内コミュニケーションと東京情報との分離的吸収の市民生活の時期が長く続いた。

た。



そして今、東京く世界が地方にとってこれだけ近い。交通距離もさることながら情報距離も、かつての松山迄の距離は今、東京迄の距離になっていることも多い。所詮は東京集中問題を叫んでも狭い日本列島のことであり、ある意味では愛媛県を語るに等しい。

東京の活力を分散することは、太陽の輝きを弱体化する地球のごとし、ということを考えられるので要注意。太陽熱の活用と同様に東京の熱源（人、物、金、情報）の活用を考えた方が得策ではなか

らうか。各地方は太陽の衛星のごとく多元的核として生きていくべきと思うのである。

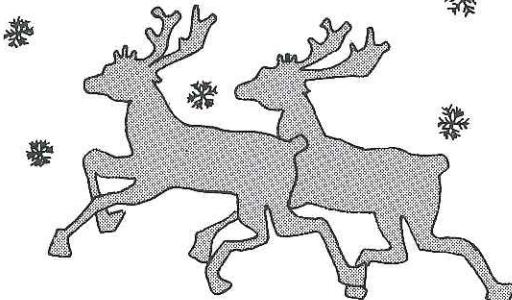
私は十八年前に「地域社会を見くる時、見えざる動き、平板な地理的世界でない世界をおさえなければ確たる把握は出来ない」と強調した。「遠くて近いものの統一的世界」を、まちづくり運動のレベルで始められた時代によようやくなってきた、と感慨深い今日この頃である。

新居浜市の将来を、又、まちづくりの展望を考える時、それは日本の構造変化とパラレルに考えるべきだ、との思いが強い。それは他の市町村も全てそうであるけれども新居浜では割と純化して見える、ということか。

遠交近交の戦略が明日の四国を拓く適切な戦略であると共に新居浜の明日を拓く最重要戦略であると思われる。

本年は別子銅山開坑三〇〇年という節目を新居浜市と別子山村は迎える。

## えひめ地域づくり研究会議



旧別子山中に三〇数回入り、住友のインカ帝国状の姿をながめないと、地域社会というのはいざれ地球の歴史と運命を語り、星をながめて考えなければならないのか、と思う。今、情報は星を媒介とし始めた時代であり、地域は星を通じて、全ての地域と交信する。そのような遠交近交の時代なのか。

### \* How to join us. \*

#### .....「えひめ地域づくり研究会議」へのご案内 .....

県内各地の皆さんから、「えひめ地域づくり研究会議とはどういうものか?」「どうすれば入会できるのか?」というご質問をいただいておりますので、この場を借りまして、『研究会議』と『入会方法』について、ごく簡単にご紹介させていただきます。

#### ◆えひめ地域づくり研究会議とは

「えひめ地域づくり研究会議」は、地域づくりに関心を持つ人たちの組織で、誰でも参加できます。自由で開かれたネットワーキングにより、地域づくりを志す仲間が、相互の考え方やノウハウを学び合う場として、個々の会員の自由と主体性を基本としています。

※この組織は、主に次のことを目的とします。

①地域づくりに関する情報交流の場とします。 ②地域づくりに関する情報公開の場とします。 ③地域づくりに関する学習と研修の場とします。

※また、この組織は、主に次のことを行います。

①研鑽を深めるために、課題別にサークル活動を行います。 ②シンポジウムまたはフォーラムを開催します。 ③先進地で研究会を開催します。 ④ニュースレターを発行します。

⑤年次総会を開催します。

※年会費を一人 3,000円とし、事務局を愛媛県まちづくり総合センター内に置きます。

#### ◆入会方法について

入会金(年次会費) 3,000円を入金し、次の事項について事務局までお知らせいただければ、その時点から会員となります。

- ・ 氏名
- ・ 勤務先
- ・ 勤務先の住所と電話番号
- ・ 所属グループ
- ・ 入金年月日
- ・ 関心事項や研究活動の課題 等。

※なお、詳細につきましては下記事務局までご連絡下さい。

〒790 松山市道後一万1-2

(財) 愛媛県まちづくり総合センター内

「えひめ地域づくり研究会議 事務局」

TEL0899-25-5557 FAX0899-25-6680

# 「遊び半分……地域づくり未来戦略」

## ——テレビ会議観戦記——

(財)愛媛県まちづくり総合センター

山本幹男

### ○ ゴングは鳴った

県内の地域づくり有志活動者の

恒例勉強会として開催しているT  
V会議が、今年は広島県の過疎を

逆手にとる会（略称「過疎逆」）  
の中心メンバー三名をナビゲーター  
に、十月二十日県民文化会館で開

催された。

過疎逆側の出席者は、自称髪結  
いの亭主こと会長の安藤周治さん、  
総領の甚六こと前事務局長の和田  
芳治さん、宮ちゃんこと事務局長  
の宮崎文隆さんである。

一方、愛媛側は、愛媛のアメニ  
ティを出口の文化「トイレ」とい  
う切り口で仕掛けた東予市の近藤

誠さん（コーディネーター）、粹  
な（生名）村でろうそく塾の世話  
人として、かわら版を発行してい  
る村上寛仁さん、天国に一番近い

島関前村からやってきた夢俱楽部

過疎逆側のみなさん



### ○ 過疎逆の先制パンチ

まず、過疎逆側から近況報告を  
兼ねて、軽くシャブを一つ、二つ、  
三つ……。

安藤さん「まちづくりでは地域  
経営の視点が大事。そうなると先  
頭に立つのは、公務員ですね。」

と例によって、公務員頑張れ論を

展開、「役人は自己規制のかたま  
りだ。遊び心を持った役人が必要  
だが、だんだんとそういう人も出

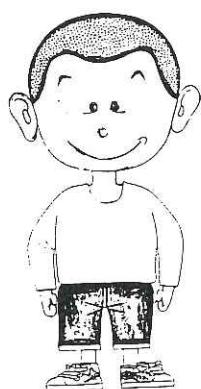
てきてている。」と役人の意識の変  
化に注目し、今後の地域の関わり  
の重要性を強調した。

和田さんは、「まちづくりごつ  
こ十年。責任のないごつこは、お  
医者さんごつこよりも面白い。」  
と口を湿し、「ふるさとを捨てさ  
せる教育論から、ふるさとで生命  
輝かせて生きる教育を実践中」と  
さらに滑らか。「今は、愚か者、  
いわゆる総領の甚六を逆手にとつ

て新しい甚六像を作り替える活動  
をしている。」「ちょっと待て、  
ゆっくり考えてみろ」みたいな、  
愚か者が最後に逆転する、つまり  
総領の甚六が、ようまつ（茶化す  
こと、冗談のこと）の甚六になる  
とますます絶好調。

宮崎さん「過疎逆は感動商法、  
人源勝負」と、事務局長よろしく  
過疎逆PRをひとくさり。そして  
地域の活性化のうえでは、「過疎  
と過密」のジョイントを仕掛けて  
いる。「東京には知識はあるが、  
感動は与えない。感動は人間の心  
を揺さ振る。過密からせひ行って  
みたいという気を起こさせるよう  
なことをやりたい。」と今、沸騰  
(フット)ワークと熱党(ネット)  
ワークで張り切っている思いを訴  
えた。

愛媛側は、新進気鋭の若手集団、  
過疎逆側は、油の乗り切った何で  
も来い集団とでもいいましょうか。  
かくして、会議のゴングは鳴った  
のである。



ようまつ  
(愛媛の総領人)

**甚六**

## ○ 愛媛のジャブよ

粹な島からやってきた村上さん「かわら版を発行しているが、俺に間の中から次に俺がやるで、俺にやらせるという人がいない。意識起こしは、どうすればいいんでしょうね？」と軽くジャブ。

そこへ和田さんカウンター、

「村上さん、あなたは後継者を早くほしいと考えすぎている。あせるな。やり続ける。」と。村上さんパンチを食らって、いい気分。少しはすっきりしたみたい。

続いて、関前の井村さん「今、島の急傾斜地のコンクリートに絵を描こうと、夢俱楽部の仲間で話

「自分たちは、好きなこと、楽しいこと、面白いことをした結果がまちづくりだといわれているんで、公務員だから、まちづくりをするべきだなどの、べき論のまちづくりではない、じぶんが楽しく、輝く活動を」とアドバイス。井村さん大きくなづき、また元気が出たみたい。最後には、井村さん

「自分は将来に対し、悲観的ではない。絶対ギップアップはしない」と力強く宣言した。

## ○ 助っ人登場

やや押されぎみの愛媛側、三人の助っ人が登場し、過疎逆ヘジャブの嵐。北条市の小崎さん「自分はイベントをいろいろやってきたが、何か浮いているようだつたが



## 愛媛側のみなさん

し合っている。しかし、俱楽部も二年目に迎え、意欲が弱くなつて来た。新しいものが出でこない。

「それはね、リーダーつまりあなたに元気がなくなつてているんだ。

そこへ、またまた和田さんが、「それはね、リーダーつまりあなたに元気がなくなつていていたんだ。

今日のこの会議に参加して、またやる気がしてきた。」と。仕掛け人として、うれしいかぎりである。  
上浦町の越智さん、明浜町の酒井さん、それぞれ、新しい企画の考え方とポストまちづくりに対する意見などを提起していただいた。

## ○ ファイナル・ラウンド

十分な打ち合せもせずに臨んだ会議であったが、コーディネーター役の近藤さんの目的を射た問題提起と質問の投げ掛けにより、今日のテーマ「遊び半分・・・地域づくり未来戦略」のねらいは、達成できただと、近藤さんを始め、出席者のご協力に、ひたすら感謝、感謝である。

最後に、近藤さんがまとめられた言葉を拝借して、失礼ながらまとめとしたい。

「地域づくりは、結局人の意識だ。そこに住んでいる人が、地域に気づき、自分のこととして地域を受け止めて、動いていくことだろ。決して、やりたくないことやをやるのではなくて、まず自分の

好きなこと、興味があることからやっていく、続けていく。それが遊び半分でもいいし、その遊びをある意味では真剣に取り組んでいいんだろう。こう思う人は、自分にいる狭いエリアでは一人かもしれないが、仲間はほかにはたくさんいる。それは、自分でフットワークを生かして、いろんな仲間とネットワークし、地域を内と外から研いでいくことになる。それが、遊び半分であろうし、また、未来戦略にもつながるんではなかろうか。」まさに、脱帽なり。

終了のゴングとともに、互いに見合わすテレビの画面には、グローブを交えた男たちにだけ味わうことができ、熱い思いと、明るい笑顔が溢れていた。



テレビは観るだけでなく話しかけるもの!!

# 元気の ゲンちゃん

## 第4回 地域づくり 交流研修ツアー

(財) 愛媛県まちづくり総合センター

石川 元英



ぬまひこだむ

人・感動・感謝…

10月21日（土）

☆ 事前研修会

何事も最初が肝心ということでお多少なりとも研修地の予備知識が欲しいことと、ツアーチームの顔見せということで事前研修がもたれました。

参加者のなかには、女性の参加を期待していたのか… 落胆の顔を隠しきれない様子も見られた。

10月28日（土）

☆ 愛知県足助町

目指すべき三州足助屋敷までの約四十五キロ、レンタカーの車中の不気味な静けさが、私のドライ

ブテクニックの未熟さからなのか…? それとも、始まる研修への

パワー温存からなのか…? 紅葉の季節には今ひとつ時期が早かつたため、色づく葉にはめぐりあうことができなかつたが、屋敷の入口の両脇にある地元の小学生が造ったあどけない表情の藁人形が、少し緊張気味の私たちを迎えてくれた。

☆ 真夜中のシンポジウム

夜は特には交流会の予定がなかつたが、そこは、県内から集まつた強者…? またまた登場「ドブロ

クと川がに」の○○町××部屋に集合、真面目なまちづくりの話はもとより、今日の会場での出来事、

身町村の裏話あれこれ、しまいには国道五十六号線に「花いっぱい運動」ならぬ「けしの花いっぱい運動」を提唱する御仁も現われ始め。さらに思いもよらずあだな

のついた人気者（アンパンマン、○○タマ、etc）まで生まれた。

☆ 藤&竹のシンポジウム

長い夜が続いた。

広場では竹で造った“すずめお

どし”が時折懐かしい爆音を響かせ、さらにバーベキューの香りが心をそそるなか、楓門の脣上に繰り広げられる熱い討論に参加した。

シンボ終了後、三千円のバザーカードで思い思いに過ごしながら、飯盛山のライトアップとシンセサイザーの饗宴を（石を投げるところなどやないだろうか、思わず程のカップルを横目に…）堪能した。



10月29日（日）

さわやかな秋晴れのなか、前日のシンポのあとかたづけに汗を流し、商工まつりで賑わう公民館で三州足助屋敷の矢澤長介館長と観光協会の水野五郎さんより一時間程のレクチャーを受けた。午後昼食をとりながら折から我々と意を同じくし、行動と共にしている大分県・朝地町と新潟県・新穂村の皆さん方と自己紹介を交わしながら新たなネットワークを広げた。

この日が休日とあって、家族連れ等でたいへんな賑わいであったが、夕闇が近づくにつれて何処からともなく現われては消えていくアベック…?の多さに一同啞然、憮然、怒り、うら若き青年にとつてこれほどの苦痛、生地獄だったことか?

### ☆ 足助人との交流会

そして、本番の交流会で足助町から六名の出席をいただき、朝地町、新穂村の面々ともども酒席を囲んだ。少々緊張気味だったが、お酒がすすむにつれ、あちこちで

催された。

べどいようだが、ライトアップされた飯盛山にとけこむように寄り添うカップル……足助の夜は、男同志または仕事で来るべきところではない、つくづく感じた。

この夜も、真夜中のシンポが開



☆ やっぱりいいだに

第三日目に入り、メンバーに疲れの顔が始めはしたが、まだまだこれからと気合いを入れなおし、一路長野県飯田市へ。

北上するにつれ紅葉も黄色から赤へと色づきを濃くしていつてい

る落葉松の林が一足早い“もみじ狩り”を楽しめてくれた。

### ☆ 無口な研修

午前中、飯田市伊賀良公民館にて、市役所・企画財政課の高橋寛治さんより、飯田市の概要、まちづくりの取組みについて伺った。

午後、名物の五平餅を食してから、高橋さんのご案内で研修が続いた。

飯田コンピューター専門学校にて榎原英勝さんより企業誘致の本質を学び、下久堅地区の柿野沢集落の宮内博司さんより、ムトス柿野沢の精神を学び、最後に人形劇カーニバルについて、松山出身で現在飯田人形劇場で事業係として人形劇に関わっておられる寺谷純一郎さんより説明を受けた。

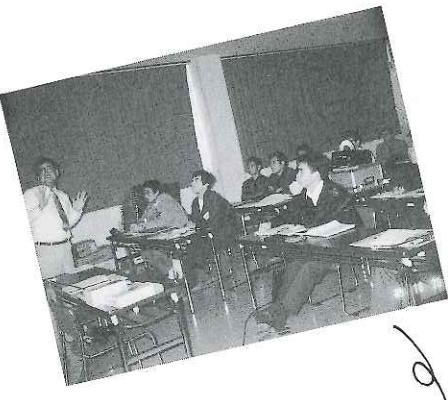


10月30日（月）

べどいようだが、ライトアップされた飯盛山にとけこむように寄り添うカップル……足助の夜は、人形劇に関わっておられる寺谷純一郎さんより説明を受けた。この頃のツアーの面々は、飯田の凄さを、いいだ人よりひしひしと感じたのか。みんな無口になつていた……?

### ☆ 感激の手づくり交流会

言葉を失ってしまった研修生の助け船となりうるか……?お酒の



力を借りての反撃となるか……?

風越山麓研修センターにて市役所企画財政課、商工会、農業者、民間の方々との交流会がもたれた。

なんと、会場に始まり料理等も私たちが研修センターに到着した時には高橋さんの奥さんやメンバーの方々によって準備がなされていました。

誰がここまでやってくれるだろうか……?感謝・感激またも言葉を失つてしまつた……!

飯田の夜はしばれたが、いいだ人のこころ温まるもてなしがいつ



☆ 人・感動・感謝……  
このツアード一番感じさせられたことはやっぱり、「人」であった。大変お世話になつた足助町の矢澤さんは、「藁&竹のシンボ」の真っ最中でお時間など取れるはずもない状況にもかかわらず、レクリャーの時間まで裂いていただけ、出発の朝の見送りをして

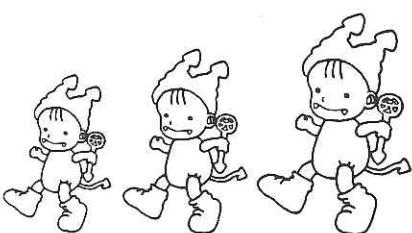
までもほのかなぬもりを与えてくれた。

いただいたりのこころづかい。  
飯田の高橋さんの夜の手づくり交流会、そこに集まる仲間の方々 etc。  
理屈じゃない、人の温かいところにふれた時の感動・感謝……の気持ち、決して忘れずにいたい。  
研修ツアーの仲間を始め、すばらしい人たちとの出会いができたこと非常に嬉しく思います。

みなさま、本当にありがとうございます。

久万町 渡辺 浩一  
今宵も非情のベルが鳴る  
妻は起きる お仕事だ  
午後十一時三十分  
毎週一回  
わが家は闇いを始める  
「おい起きいよ」  
私は二度目の目覚し時計に言う  
妻は重たく起き上がり  
顔を洗う  
うがい歯みがき、  
軽やかなブラッシング  
そして薄目化粧に着替する  
やがて眠たげな自動車音  
私は見送り  
子供達の寝床に帰る  
七才と五才の息子達は  
あはれて眠る

午前零時  
この父の子守が始まる  
妻は看護婦なのだ。



## 愛妻日詩

久万町 渡辺 浩一

今宵も非情のベルが鳴る

妻は起きる お仕事だ

午後十一時三十分

毎週一回

わが家は闇いを始める

「おい起きいよ」

私は二度目の目覚し時計に言う

妻は重たく起き上がり

顔を洗う

うがい歯みがき、

軽やかなブラッシング

そして薄目化粧に着替する

やがて眠たげな自動車音

私は見送り

子供達の寝床に帰る

七才と五才の息子達は

あはれて眠る

午前零時

この父の子守が始まる  
妻は看護婦なのだ。

# 人と地域がとけあうまち

(財)愛媛県まちづくり総合センター

## 幸 地 慎 一

がそれで保っているとは言わせないようになっています。」との言葉は企業誘致の本質でもある。

研修等で地域形成を学ぼうとするとき、その地域の典型的な事例を持ち帰り、自分流にアレンジしながら展開していくことは大切なことである。しかし、そのことが地域にとってどんな意味を持ち、どう位置付けられるのか、さらには今後はどう展開させていけばいいのかといったことを体系的に学ぶことは中々難しいものである。初めて飯田市を訪れ、今回大変お世話になった市役所の高橋寛治さんのお話からは、農・工・商や集落・地区・市域といった地域の縦軸に対する横軸としての人の結びつき、あるいは、ハードな施設やイベントが地域や文化性の中で何を意味するのかなど基本的なものをしかもトータルに実践されているという印象を受けた。この研修で再び実践されている皆さんにお会いす

ることで、自らの在り方は自らが考え実践していく、当たり前だが一番大切な地域自治の思想を底流に、地道な活動を展開されているところを改めて実感することができた。以下は人・産業・文化と地域がとけあつた具体的な展開の事例である。

### △産業に見る地域主義△

古くから残る食品などの地場産業を育む一方で、精密機械を中心とした工場を系列化しながら地域完結型の産業構造を形成している。

私たちが訪れた飯田コンピュータ専門学校と市との協定にも、地域に人材を育成し振興の一翼を担うことが印されている。「たとえ大手の企業が進出してても、飯田市

### △農と商の有機的結びつき△

昭和二十二年の大火で町の中心街の大半が消失し、その後の基盤整備で商店街の通りは広く見通しもよい。しかし、昭和五十年の中

央自動車道開通や関連道路の整備

によって大型の郊外店が相次ぎ、加えて過疎化で地盤沈下の傾向にあった。こんな危機の中で「商業会」という任意団体は質の高いイベントや美化事業に取り組むとともに、地域の商圈に目を向けようとして農村部との交流を進め

ている。具体的には朝市交流であるが、商売を考える上でそれを支えてくれている人と人の結びつきと、それを通じて農村 자체が商業の実態や消費者の顔が見えてくるということで、単にものを売るための技術論に終わらせず、しかも商業者自身が自主的に活動している。

### △集落複合経営△

河岸段丘という特殊な地形を持つ飯田市では週辺の農村部では農業も盛んである。しかし平坦部が少なく、水利条件にも恵まれない厳しい条件下で、集落複合経営



世田谷区民との交流を通じて加工事業や野菜を中心とした計画生産で高齢者の生産意欲を創りだして いる。また、域内での無人市や自らの学習活動を通じて意識づくりも盛んに行われていた。交流によつて集落を外に開きながら“ゆい”の思想で内なる絆を大切に育てるということであった。「減反等で国政に不満がないではない。私達の活動は体制順応型といわれるかもしれないが、要是自分たちの地域を本当に住み易くするためには、何事も自分たちで築いていかねばならない。その精神の柱となつて いるのは、公民館活動と生産活動としての集落宮農そしてムトス柿野沢だ。」（ムトスとはへせんとす／＼の意味で“ムトス飯田”的理念を受け継いだものである。）といわれたりーダーの宮内さんの言葉に、集落自治の原点を感じるとともに、これから山間地農業の在り方を見た。

人形劇—ソフトと

ハードとして人▽

人形劇カーニバル十年目を迎えた。行われた世界人形劇フェスティバルで飯田の文化性が世界に評価された。地域に残る伝統的文化にこだわりながら視点をグローバルに展開し、どこにもない文化に育つつあった。また、昨年建設された飯田人形劇場はその十年のソフトの積み重ねの中で全国十万人といわれるウニマ（劇人）から必要とされながら建設されたものである。ややもするとハード先行になりがちな公共施設の在り方を示している。さらに、人形劇に魅せられて松山市（愛媛県）から飯田市に移られた事務局の寺谷さんからいえばマイナーな存在の人形劇の地位向上に対する情熱、本物づくりにとってこだわり続けることの大切さを教えていただいた。

## 香 嵐 溪



A vertical ink and wash painting depicting a landscape. On the left side, there is a large, detailed tree with many branches and leaves. The background is filled with soft, misty washes of ink and color, creating a sense of depth and atmosphere. The overall style is traditional East Asian, possibly Chinese or Japanese.

私たちが出会った人々がそれでの分野で精一杯活躍されていて、ことを肌で感じながら、しかも、その人たちを中心とした地域のがどこかでつながり合いながら田市を形づくっている。その人を横につなぎ合わせる役割を担っているのが公民館活動をベースにして培われてきた自治の精神である。さらに、それを支えてきたのが、公民館主事として地域人たちとの会話を地道に続けていた高橋さんたち自治体の職員だった。また、一方では身の回りサイズでの普段の活動とともに市民セミナーや興村塾を始め、数多くの学習活動も盛んに行われている。

私たちの宿泊所となつた風越山麓研修センターでは、迎えていただいた皆さんによる本当に手作りの心温まる交流会を用意していただいた。同席していただいたメンバーの人たちも、我がまち飯田を想い、愛し続ける高橋さん達の仲間であった。顧みて私にはまだまだこの地、この人たちに学ぶことの多さを痛感しながら研修を終えた。再び仲間と訪れたいとの想いを抱きながら……。



い い だ . . .

## 『体感…人と本音』 のまちづくり

御荘町役場

木原 荘二

「足助もよし、これまた飯田はいいだ……」研修ツアー四日目飯田市での交流会の自己紹介で、若干のうけを狙つたつもりの言葉であったが、今改めて“やっぱりいだ”という実感で一杯である。確かに三州足助屋敷をメインに、伝統文化をわきまえ、そこに根づいたものを生かしながらの足助のまちづくりも山村の個性（らしさ）を物語としてとらえ、すばらしいものであった。

しかし飯田のまちづくりには、すべてに人が絡んでいる。まちづくりの基本は、地域のコミュニティづくりであり、住民の自主活動によるのがいいだ。公民館活動を強化することにより、住民と行政がそれぞれ共通の領域をつくり、そこから数多くの団体やグループが生まれ、まちの歴史や文化に関心をもち、足元を見つめなおすこと

により、今まで気づかなかつた新しい輝きを発見し、それぞれの人々がそれなりにまちをよくしていくとする意識につながっている。

加えて情報発信がある。飯田市には市のことを記事とする新聞社が二社もあるという。コミュニティづくりといっても、人によつては同一地域に住むからといって何で話し合いをしなければならないの



↑木原 荘二さん

要であり、しかもそこに住む人の手でつくられたものは最高である。

人形劇文化を通じての地域を精神的に支える環境づくり、集落複

のこととして根をおろしているのだろうか？

今回の研修ツアー目的にI氏が「本音で勝負、この若さで……青春をかえせ！」と書いていた。なかなか書けるものじゃない。（ごめんほめたつもり。）

しかし、何事も本音でとらえ、書き、語り、つき合うことが、真



書き、語り、つき合うことが、真のネットワークづくりの全てではないだろうか。いつも思うことにどこ地を訪れ、いくらその場のすごさを目の当たりにしても、結局一番いいのは“わが郷土”なのである。これからは、結果を恐れず、背のびせず、気持ちだけは前向きに、地道に本音で、酒文化もアルプスの山々をイメージした美術博物館に代表されるハード施設の整備による都市化イメージでの新しい味わいと共感をよぶ演出づくり等々すべてに人を中心とするまちづくりが展開されている。

まちづくりとは？との質問に企画課の女子職員は“何ですか”と答えたという。すべてが無意識のうちに蓄積されたもので、当り前



興味のあることであれば誰でもすばらしい“なかも”をつくることができる。そうしたつながりを、

より強めるには「ひと・情報」は重

# 『足助の紅葉も 飯田のつゝ「」も 赤く燃えていた

生名村役場

岡 繁穂

十月二十七日から三十一日まで  
の間、まちづくり総合センター主  
催による「第四回地域づくり交流  
研修ツアーワーク」に参加する機会がも  
て、愛知県の足助町と長野県の飯  
田市を訪れた。

足助町は、林業を主産業とする  
人口約一万二千人の町で、この町  
に年間百万人もの観光客が来ると  
いう。そのナゾは、江戸時代から  
先人たちが紅葉の木を植え、「香  
嵐溪」という紅葉の名所を作った  
ことから始まる。昭和四十年代の  
高度成長時代に入り、この町もご  
他分にもれず、人口の流出が始ま  
り過疎化現象が発生し、生活文化  
の面でも、近代化的流れの中で、  
古き良きものがどんどん捨てられ  
ていったそうです。

そのような状況の中、良いも  
のを何とか残そうとの考え方で、町  
なっている。

の有志が古い草葺きの民家を香嵐  
渓に移築し、民芸料亭を開いた。  
この事がきっかけとなり、昭和五  
十五年には、町が「三州足助屋敷」  
を造ることになった。これは、草  
葺きの家屋を主体に造られており、  
ひと昔前の「自分の生活に必要な  
ものは自分で作る」の精神を再現

を造ることになった。これは、草  
葺きの家屋を主体に造られており、  
ひと昔前の「自分の生活に必要な  
ものは自分で作る」の精神を再現



岡 繁穂さん

私たちが訪れた日には、「ワラ  
と竹のシンポ」（昨年は「炭のシ  
ンポ」）があり、屋敷内の至る所  
にワラと竹を使った工夫がされ、  
参加者や訪れる人々に問題を投げ  
かけ、楽しめる配慮がされてお  
り、全国に向けて生活文化提案の  
情報発信を行っている。また、こ  
の日の夕方には、紅葉をナトリウ  
ム灯で地上から照らす「ライトアッ  
プ」の点灯式があつたが、幻想的  
な美しい香嵐渓は、新しい足助ファ  
ンを増やすに違いないと思った。

さて、つぎに訪れた長野県飯田  
市は、「りんご並木」と「人形劇」  
で有名な人口約九万三千人の町で、  
特に興味を引いたのは、十七地区  
に有る公民館を通じて、住民との  
接觸を積極的に行い、住民ニーズ  
の把握をし、行政に反映している  
点と、「集落複合経営」と言う、

地区で起る様々な問題は、自分た  
ちの努力で解決し、安易に行政に  
頼らないシステムを構築しつつあ  
が出来るかについて、重要なヒン  
トを与えてくれた貴重なものでした。

地区的努力で解決し、安易に行政に  
頼らないシステムを構築しつつあ  
が出来るかについて、重要なヒン  
トを与えてくれた貴重なものでした。

その原点を見た感じがしました。そ  
れと市内のあちらこちらを案内し

てくれた市役所の高橋寛治さん、  
この人のまちづくりに対する情熱  
の凄さには圧倒されました。

今回訪問した二つの町は、まち  
づくりに対するポリシーがしっかりと  
しておらず、いかに自分たちの住  
んでいる地域を良くするかについ  
て、行政と住民が一体となり、智  
恵を出し合い、「夢」と「ロマン」  
を求めて努力している素晴らしい  
ところでした。

それと、まちづくりに欠かせな  
いものは、情報とノウハウを得る  
ための身近な、あるいは、全国的  
な人のネットワークであること、  
まちづくりは一朝一夕に出来るも  
のではないことを強く感じました。

今回の研修は、今後の自分に何  
が出来るかについて、重要なヒン  
トを与えてくれた貴重なものでした。

## message

Masumi Tange



ゆとり、やさしさ  
があふれている

ストラットフォード・アポン・エイボンに行つた。

ロンドンからバスで約三時間。シェイクスピアの生家がある所として名高いこの町。ロイヤルシェイクスピアシアターというシェイクスピアの劇を上演している劇場もある。イングランドでB&Bを紹介してもらいたウンマップをいただいて、まずはひとまわり。



この町は内子の町並みを思いださせる。とても古い昔の建て物を大切に保存して、それが生きてるってかんじがする。私がもつていたイギリスのイメージと違い、あまりにも青い空にあまりにもやさしい空気。その中で美しい建物の白が光ってる。街灯に飾られた花、どこを写真に撮っても絵になる街角。エイヴォン川に沿って芝生の公園があり人々が思い思いに過ごしてる。私もここから日本へとカードを書く。ゆつたりとした時の流れの中で旅行者であることを忘れてしまった。

## あ 知 ら せ

### ◆えひめ地域づくり研究会議『総会』開催について.....

例年11月に「総会」を開催しておりましたが、今年次は下記の活動者集会に合わせて開催する予定です。詳細につきましては後日ご連絡させていただきますので、会員の皆さんぜひご参加いただきますようお願いします。

と き 平成2年2月27日(火) 午前10:00~11:30

\*『'90えひめ地域づくり活動者集会』に合わせて開催します。

と こ ろ 愛媛文教会館

### ◆『'90えひめ地域づくり活動者集会』へのご案内.....

1987年11月に設立した「えひめ地域づくり活動者集会」も2年を経過しました。これまでの取り組みを振り返りながら、「地域づくり」に思いを寄せる仲間たちが集い語り合う中から、新たなる活力と、真に「それぞれの地域づくり」につながるものを探求する「学習・交流集会」を開催したいと思います。

お誘い合わせのうえ、お気軽にご参加いただければ幸いです。

\* なお、詳しくは後日、改めてご案内させていただく予定です。

と き 平成2年2月27日(火)・28日(水)

と こ ろ 愛媛文教会館・道後保養所えひめ

主 催 えひめ地域づくり研究会議・愛媛県まちづくり総合センターほか

内 容 研究主題「再考／いま、なぜ“地域づくり”なのか」

～くらしの視点から、地域の未来づくりを～

フォーラムⅠ 『地域経営の在り方を探る』 ゲスト (検討中)

フォーラムⅡ 『これから地域産業のあり方を求めて』 ゲスト高橋 寛治さんほか

フォーラムⅢ 『景観からの地域づくり』 ゲスト 佐藤 優さんほか

フォーラムⅣ 『女性の世界が広がる』 ゲスト 立川 百恵さんほか

パネルディスカッション 『暮らしの観点から地域の未来づくりを』

総括講演 『再考／いま、なぜ“地域づくり”なのか』

講師／大森 碩・東京大学教養学部教授

きょう、私通り抜けた風は  
あすはどこにいるのだろう  
山を駆け、海を渡り  
木々を鳴らしては  
“ここにいるよ”と叫んでいる  
それでも  
眠れる大地には  
伝えたくても伝わらない  
聞きたくても聞こえないのかも  
しれないね……

FAX ○八九九(二五)六六八〇  
TEL ○八九九(二五)五五五七  
二人のMs.(丹下・久保田)  
『財愛媛県まちづくり  
総合センター』  
〒七九〇 松山市道後一万一の二  
まで

「舞・たうん」編集係  
次回「舞・たうん」特集は  
“明日の暮らし創造”です。  
せ下さい。

内容についてのご意見や活動内  
容についての記事など気楽にお寄  
り下さい。